

平成30年度

「南濃みかん」生産者意向調査

集計結果報告書

平成30年6月

海 津 市

# 「南濃みかん」生産者意向調査 集計結果報告書

## 目 次

|                               |    |
|-------------------------------|----|
| 1 「南濃みかん」生産者意向調査.....         | 1  |
| 1-1 調査の概要.....                | 1  |
| 1 調査目的.....                   | 1  |
| 2 調査方法.....                   | 1  |
| 3 調査対象.....                   | 1  |
| 4 調査時期.....                   | 1  |
| 5 調査票の配布・回収状況.....            | 1  |
| 1-2 調査結果.....                 | 2  |
| (1) 居住地区.....                 | 2  |
| (2) 性別.....                   | 3  |
| (3) 年齢構成.....                 | 4  |
| (4) 農家形態.....                 | 5  |
| (5) 農業従事日数.....               | 6  |
| (6) 耕作面積.....                 | 7  |
| (7) 現在、今後のみかんの販売方法.....       | 8  |
| (8) 年間の農業所得.....              | 10 |
| (9) 農業後継者.....                | 11 |
| (10) 農業後継者の年齢.....            | 12 |
| (11) 農業経営や労働力.....            | 13 |
| (12) 農業経営での女性の役割.....         | 14 |
| (13) 農業経営での課題や要望.....         | 15 |
| (14) 耕作していない農地の有無.....        | 17 |
| (15) 耕作していない農地がある理由.....      | 18 |
| (16) 今後の農業経営の方向性.....         | 19 |
| (17) 中山間地域等果樹植栽事業補助金の認知度..... | 21 |
| (18) みかんなどの果樹植栽に係る補助金要望.....  | 22 |
| (19) 10年後の農業経営に必要なこと.....     | 23 |
| まとめ.....                      | 25 |

# 1 「南濃みかん」生産者意向調査

## 1-1 調査の概要

### 1 調査目的

現在の「南濃みかん」生産者の農業経営の実態を把握し、今後の農業振興計画策定のための基礎資料とする。

### 2 調査方法

道の駅月見の里南濃柑橘部会・JA にしみの南濃みかん部会・JA にしみのファーマーズ南濃店に登録されている「南濃みかん」生産者農家世帯を調査対象農家と選定した。調査対象農家には調査票を郵送配布するとともに、郵送にて調査票を回収した。調査票には各農家で主に農業に従事している方に記入していただくよう依頼した。

### 3 調査対象

道の駅月見の里南濃柑橘部会・JA にしみの南濃みかん部会・JA にしみのファーマーズ南濃店に登録されている「南濃みかん」生産者農家 200 世帯。

### 4 調査時期

2018 年 5 月に調査票を配布し、2018 年 5 月 31 日を期限として回収した。

### 5 調査票の配布・回収状況

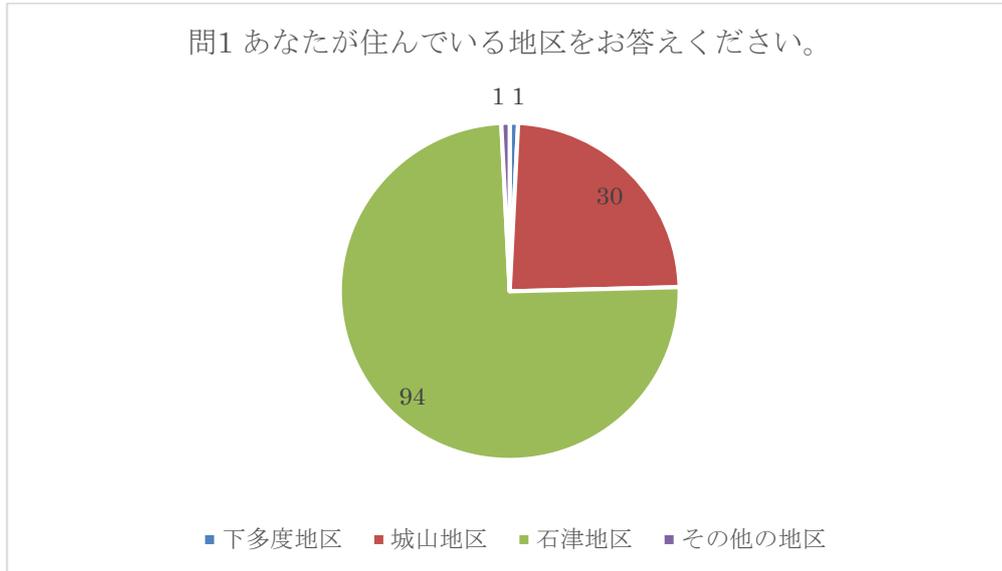
調査票の配布部数、回収部数、有効票の部数等は以下のとおりである。

|        |       |
|--------|-------|
| 配布部数   | 200 部 |
| 回収部数   | 126 部 |
| 有効票の部数 | 126 部 |
| 回収率    | 63.0% |
| 有効回答率  | 63.0% |

## 1-2 調査結果

### (1) 居住地区

今回の意向調査で回答を得た農家の居住地については、石津地区が 94 戸と最も多く、全体の 75% (94/126) を占めた。次いで多いのは城山地区の 30 戸で 24% (30/126) であった。

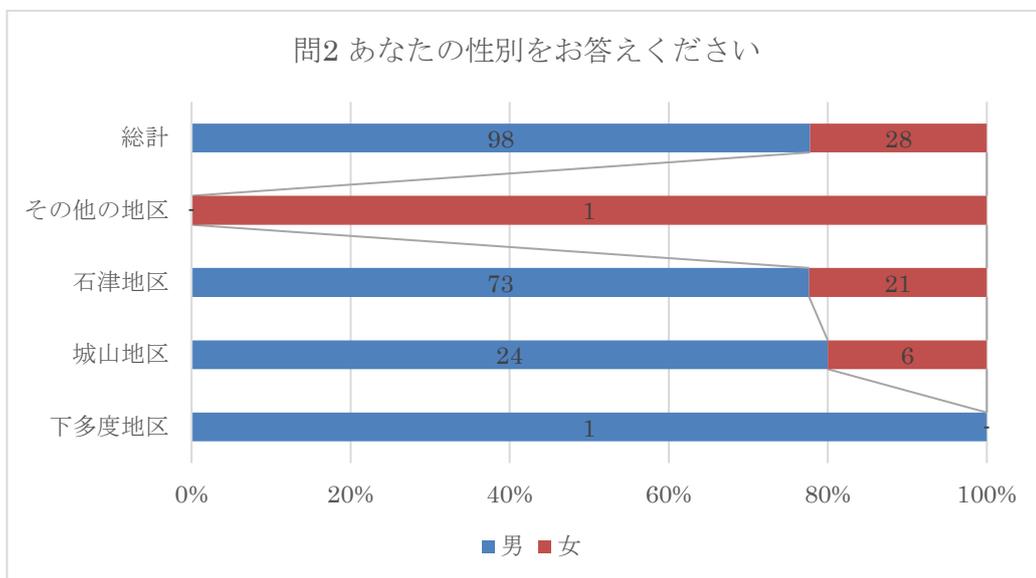


有効回答数: 126 / 単一回答

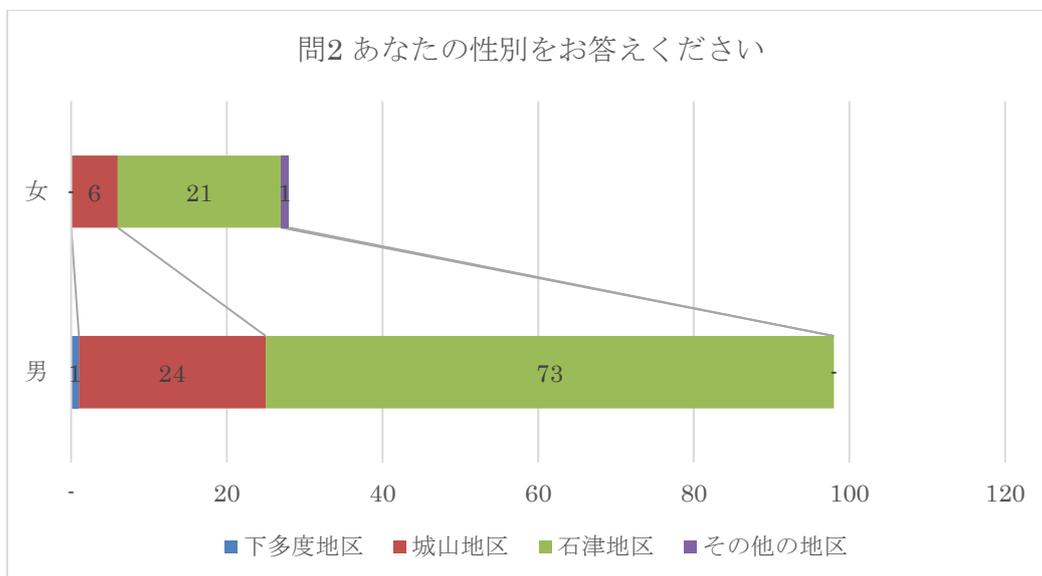


## (2) 性別

今回の意向調査の回答者(主に農家に従事している人)は、全体では、「男性」が 78% (98/126)、「女性」が 22% (28/126)であった。

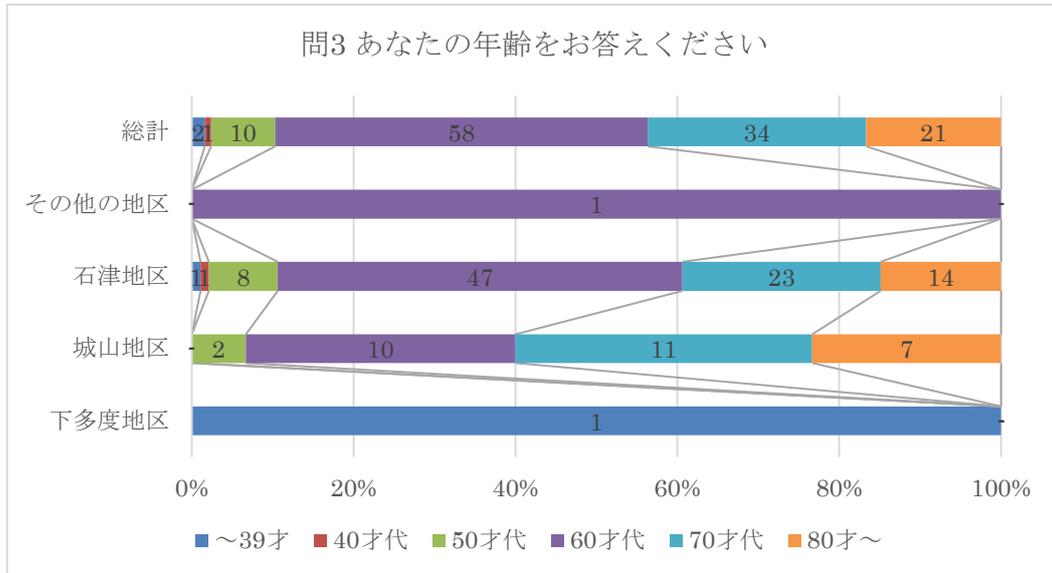


有効回答数: 126 / 単一回答

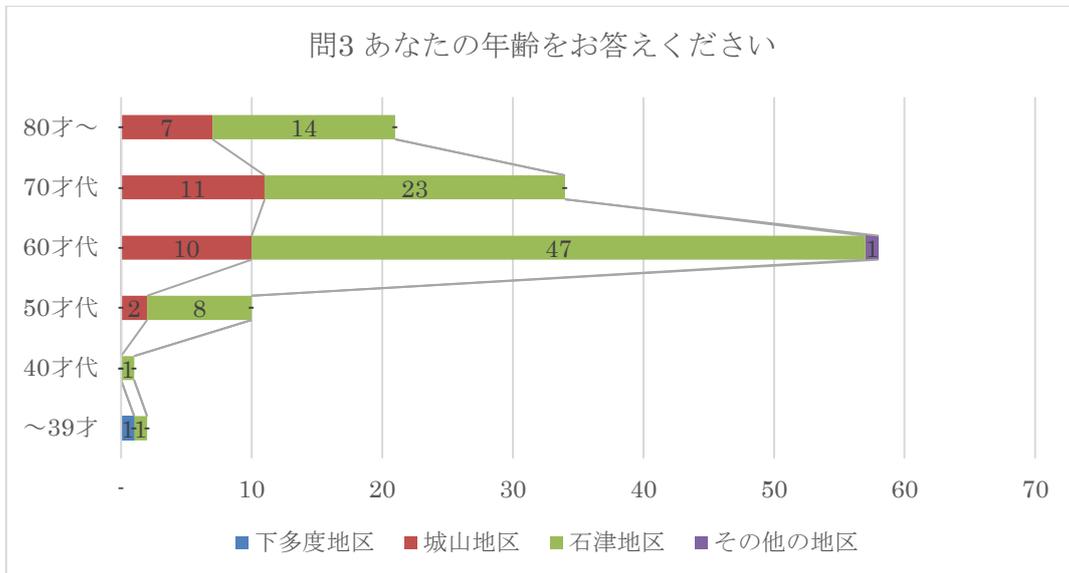


### (3) 年齢構成

今回調査における回答者の年齢をみると、全体では、60才代の割合が46% (58/126)と最も高くなっている。「60才代以上」が全体の90% (113/126)を占めており、本市の南濃みかん生産者は高齢者が大半を占めていることがわかる。



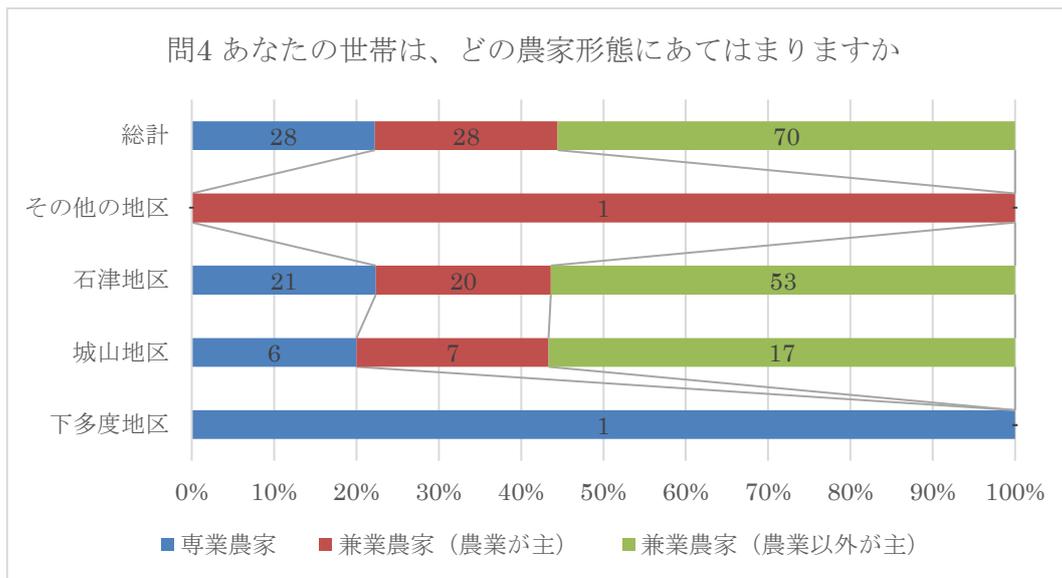
有効回答数: 126 / 単一回答



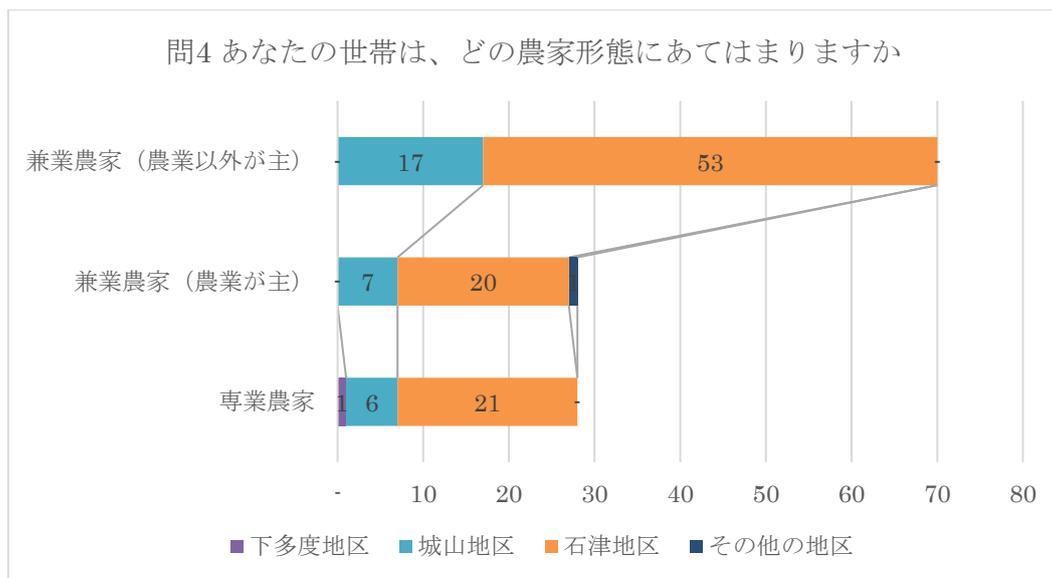
#### (4) 農家形態

全体では、兼業農家(農業以外が主)が 56% (70/126)と最も多い。次いで専業農家が 22% (28/126)、兼業農家(農業が主)が 22% (28/126)を占めており、兼業農家が全体の 78% (98/126)を占める。

全体では、主な所得を農業以外から得ている農家の割合が比較的高く、農地を維持するための担い手の不足が懸念される。



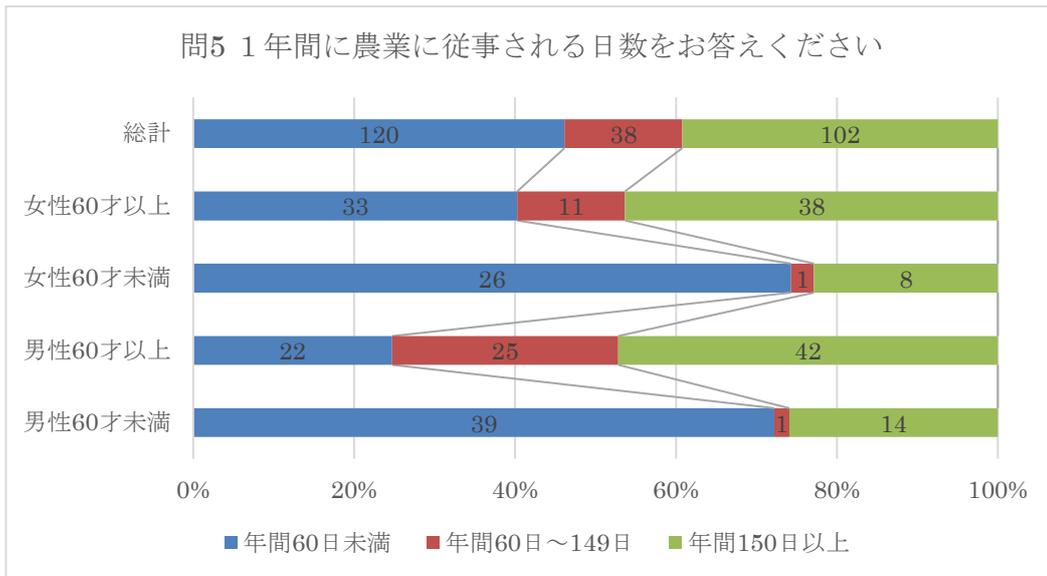
有効回答数: 126 / 単一回答



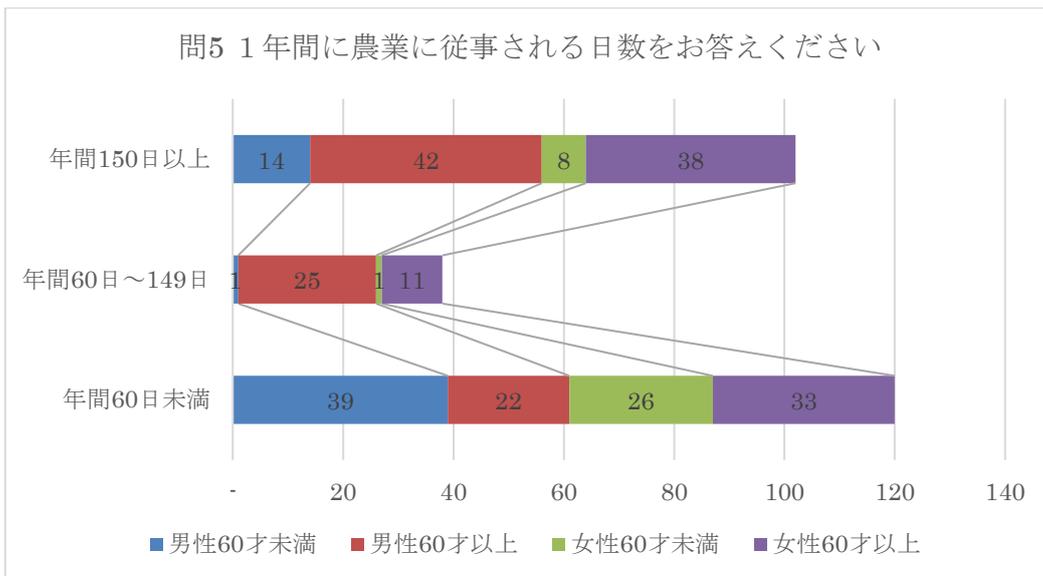
### (5) 農業従事日数

全体では、年間 60 日未満の農業従事者は、46% (120/260)を占める。次いで年間 150 日以上の農業従事者は、39%(102/260)、年間 60 日～149 日の従事者は 15% (38/260)を占めている。

男性・女性共に、60 才以上の農業従事者の労働日数が多く、高齢者の労働力に依存していることがわかる。



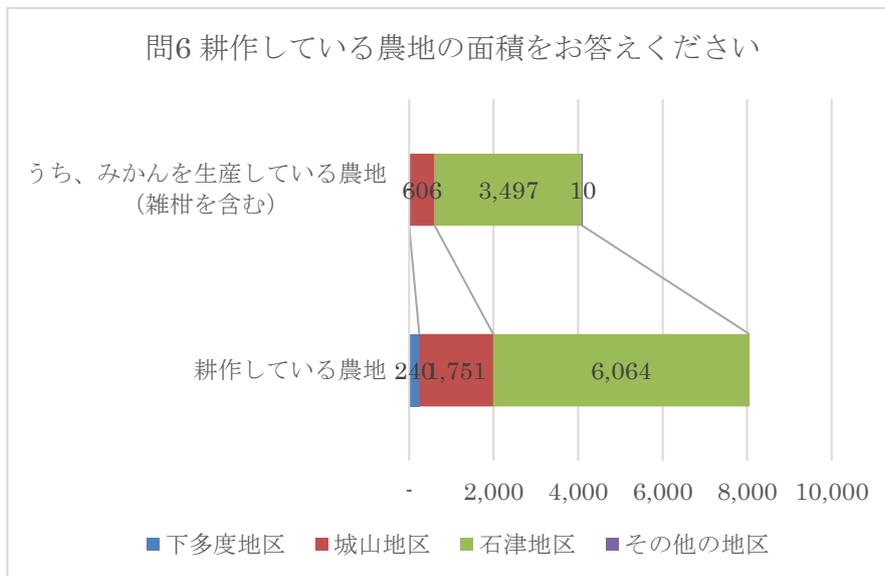
有効回答数:260/複数回答



## (6) 耕作面積

全体では、8,055アールの農地面積のうち、4,113アールで南濃みかんが栽培されており、石津地区で3,497アール、城山地区で606アールみかんが栽培されている。

みかん耕作面積の規模別で最も多いのは、「20～29アール」25% (30/122)で、次いで「30～39アール」19% (23/122)、「10～19アール」12% (15/122)、「0～9アール」12% (14/122)、「50～59アール」9% (11/122)、「40～49アール」8% (10/122)と比較的小規模の生産者が多い一方で、80アール以上の大規模生産者も6名ありました。

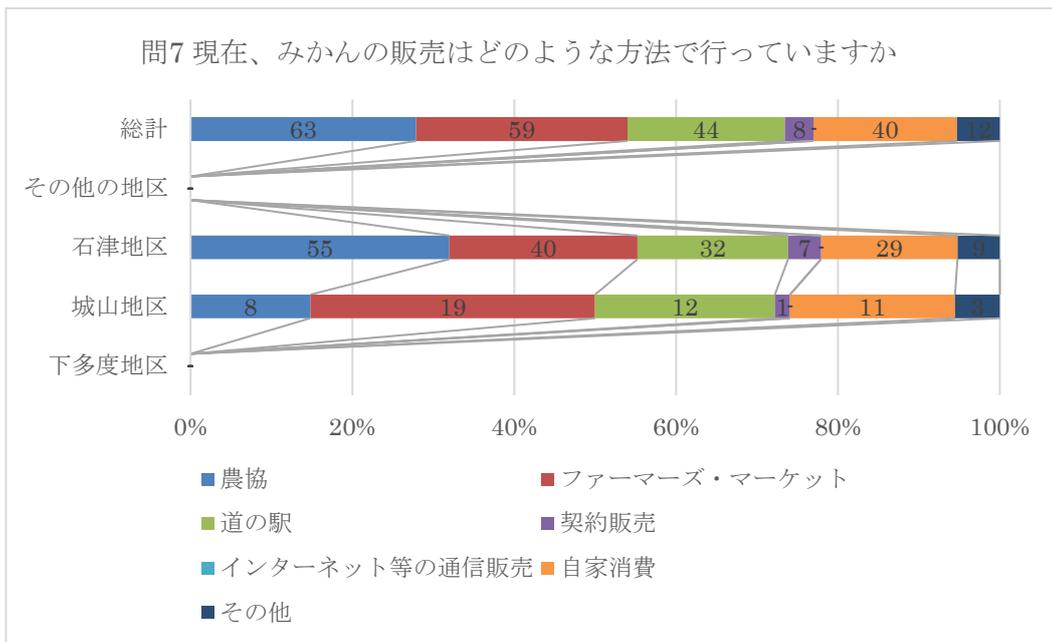


有効回答数: 122 / 単一回答

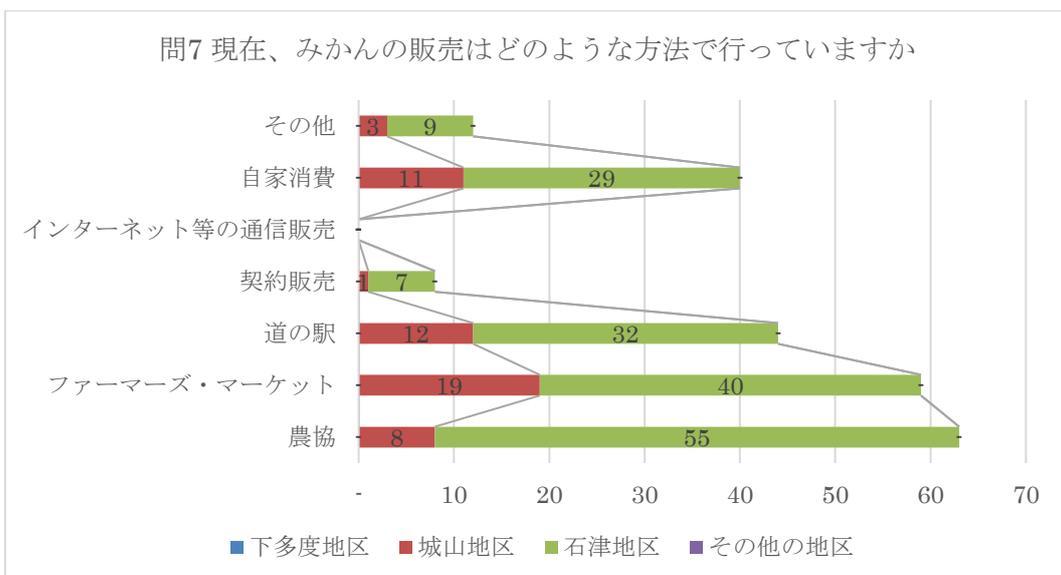
### (7) 現在、今後のみかんの販売方法

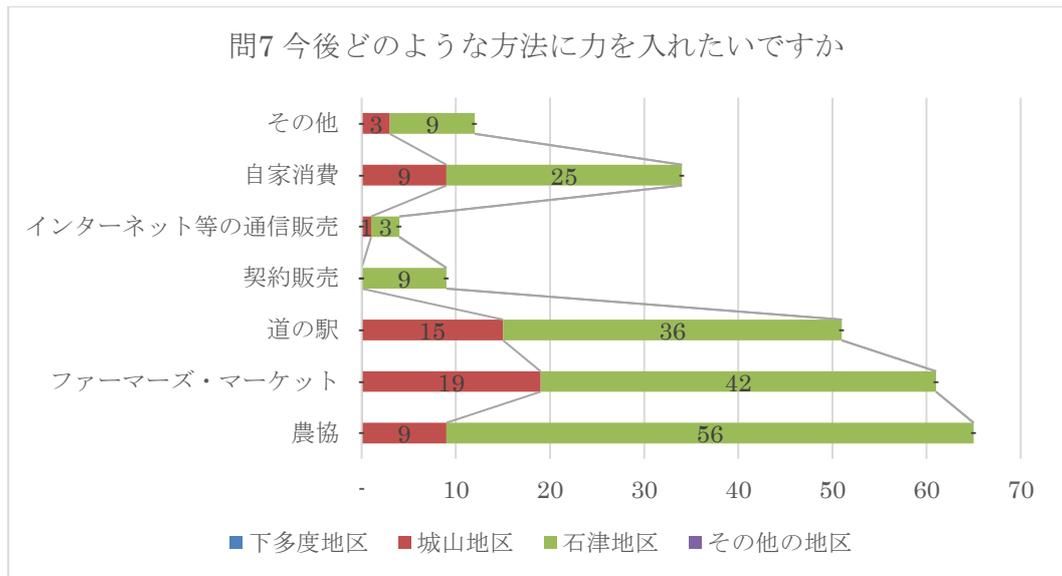
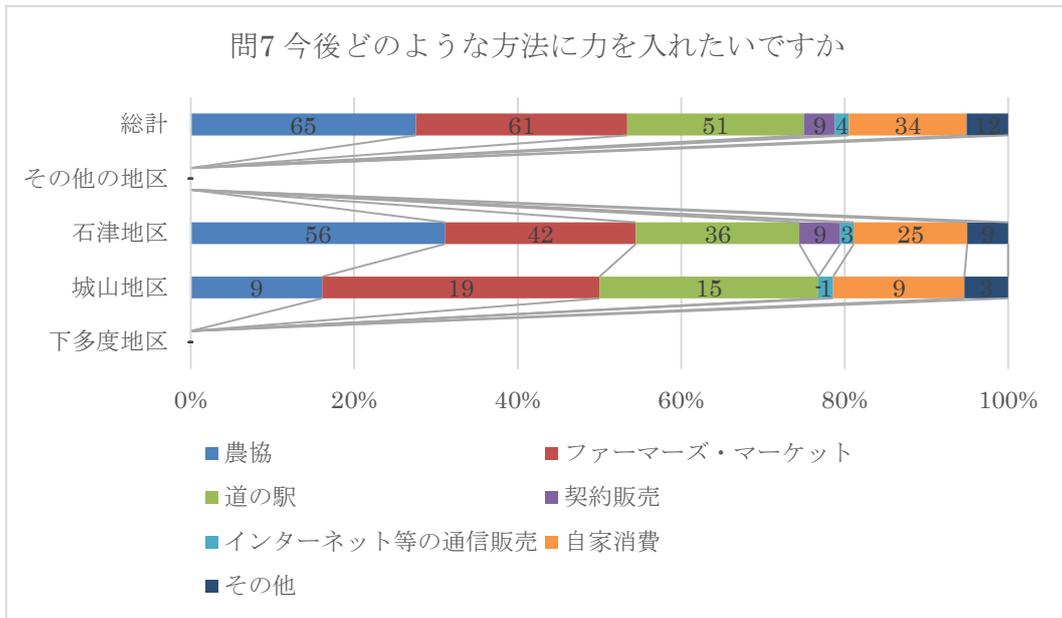
全体では、現在の販売方法で最も多い販売方法は「農協」28% (63/226) で、次いで「ファーマーズマーケット」26% (59/226)、「道の駅」19% (44/226)、「自家消費」18% (40/226)の順となっている。

今後の販売方法についても、現在の販売方法を引き続き希望される生産者が多いが、新たに道の駅への販売を希望される生産者が7名あり、新たな販売方法を望む意見がある。



有効回答数: 226 / 複数回答

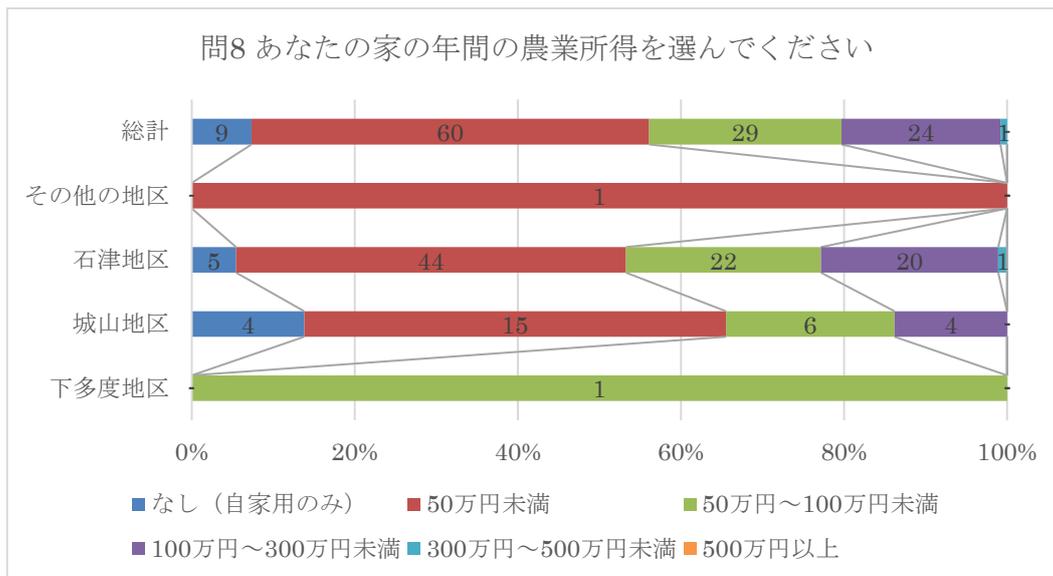




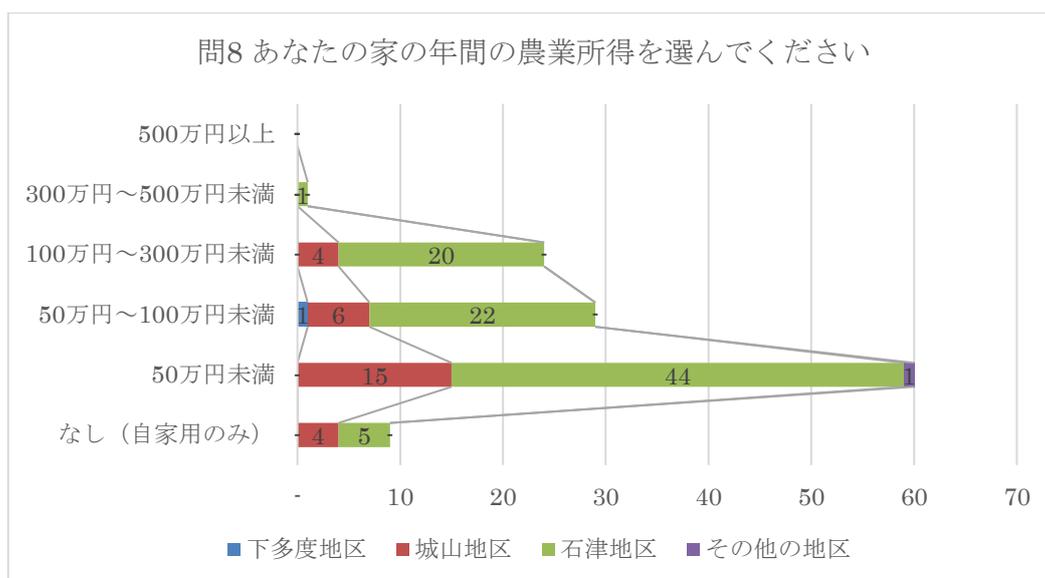
### (8) 年間の農業所得

年間の農業所得について、全体では「50万円未満」が49% (60/123)と最も多く、次いで「50万円～100万円未満」が24% (29/123)、「100万円～300万円未満」が20% (24/123)、「300万円～500万円未満」が1% (1/123)となっている。

南濃みかん生産者は、農業収益が労働の割に少ないという現状が読み取れます。



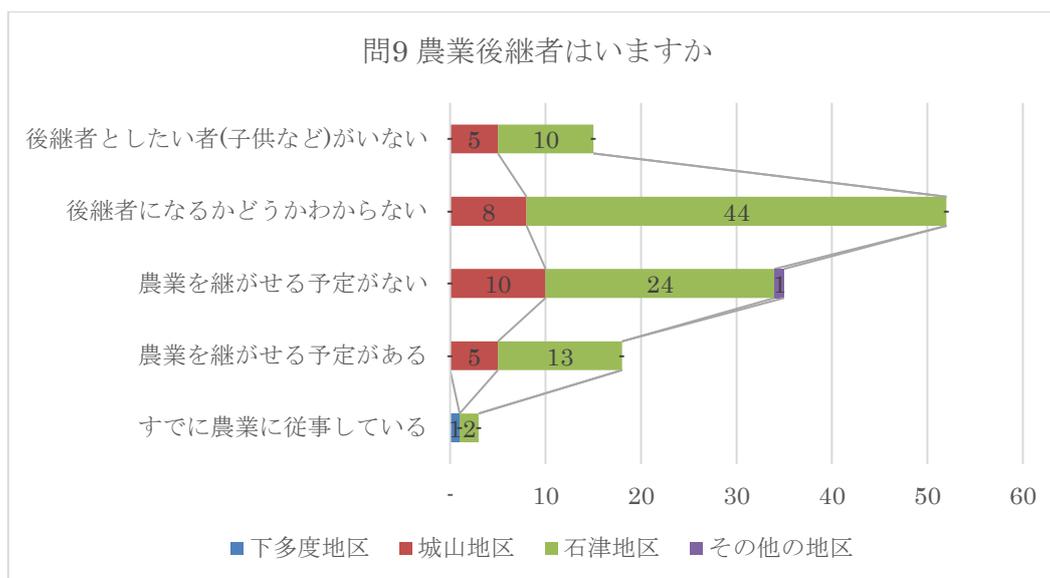
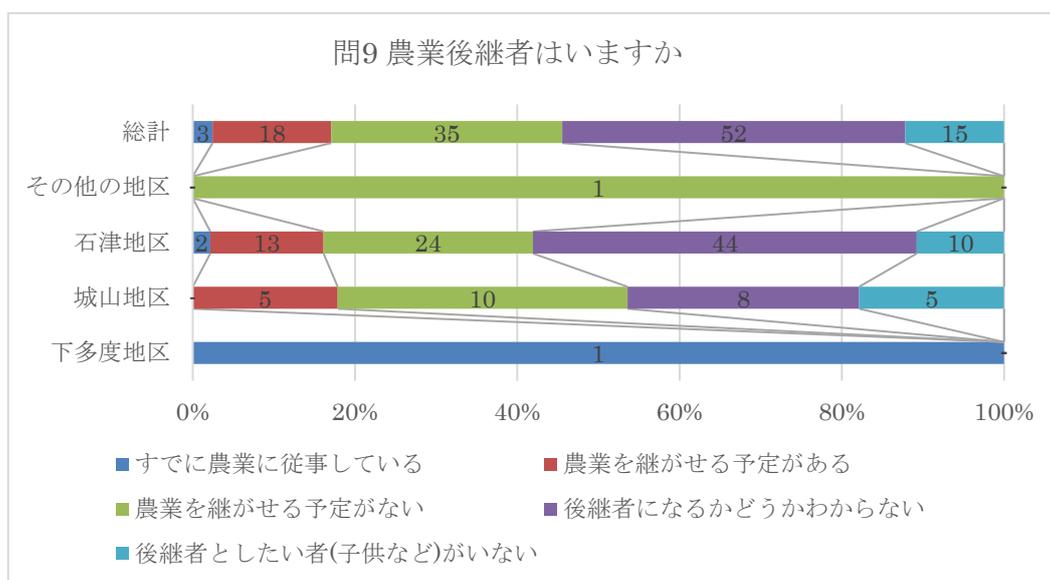
有効回答数: 123 / 単一回答



### (9) 農業後継者

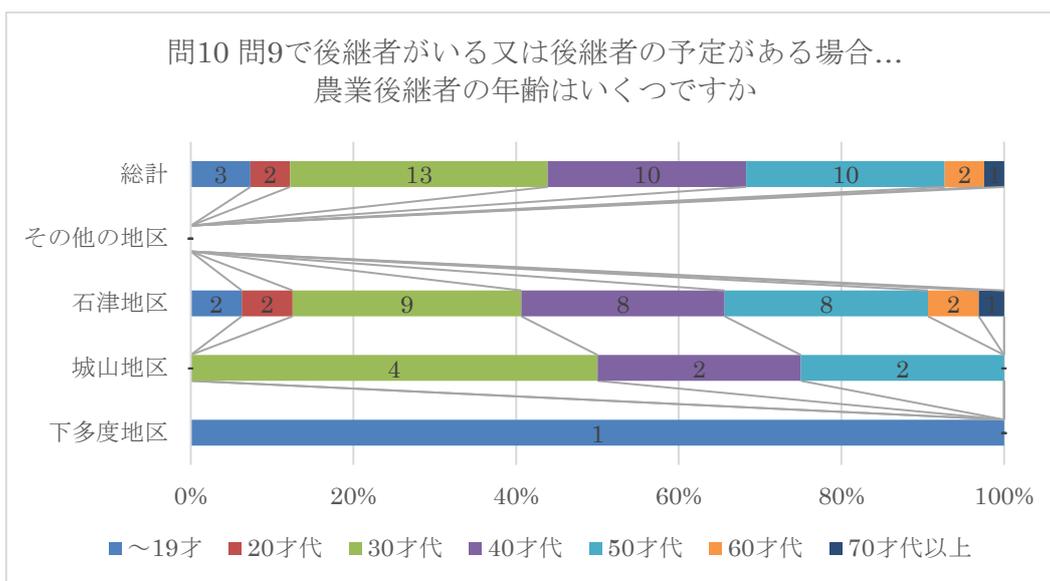
農業後継者について、全体では「後継者になるかどうか分からない」が 42% (52/123) と最も多く、次いで「農業を継がせる予定がない」が 28% (35/123)、「農業を継がせる予定がある」が 15% (18/123)、「後継者としていたい者がいない」が 12% (15/123) となっている。

「すでに農業に従事している」と「農業を継がせる予定がある」を合わせると、17% (21/123) は農業後継者が確定しているが、「後継者になるかどうか分からない」42% (52/123) のみかん生産者をどう後継者としていくかが課題となっている。

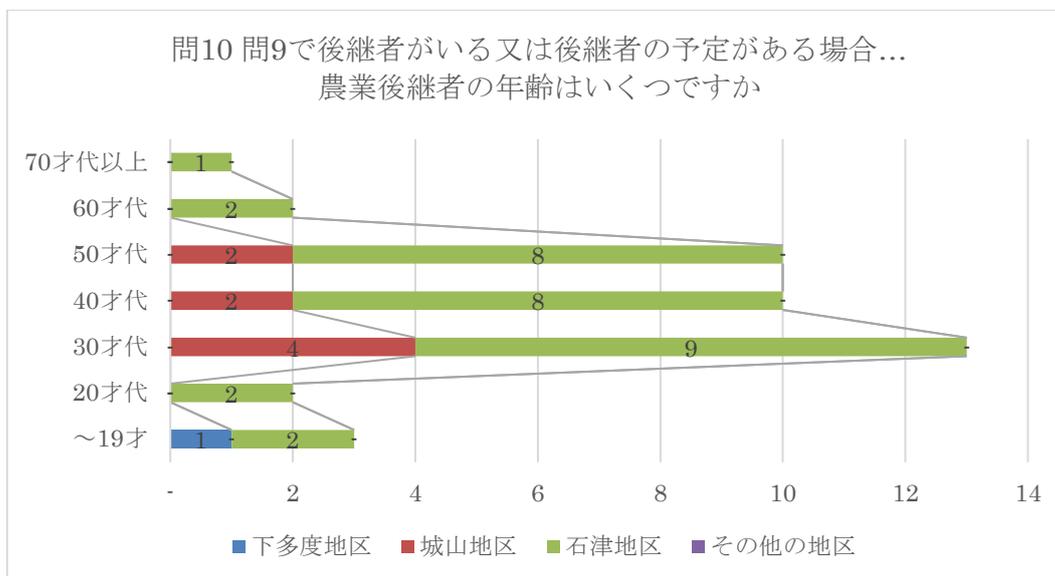


### (10) 農業後継者の年齢

農業後継者がいる又は農業後継者の予定がある場合、農業後継者の年齢について、全体では、「30才代」が32% (13/41)、「40才代」と「50才代」がそれぞれ24% (10/41)と続き、「60才代以上」が、7% (3/41)と30才台と40才台の若い農業後継者が56% (23/41)いる一方で、農業後継者の高齢化が懸念される。

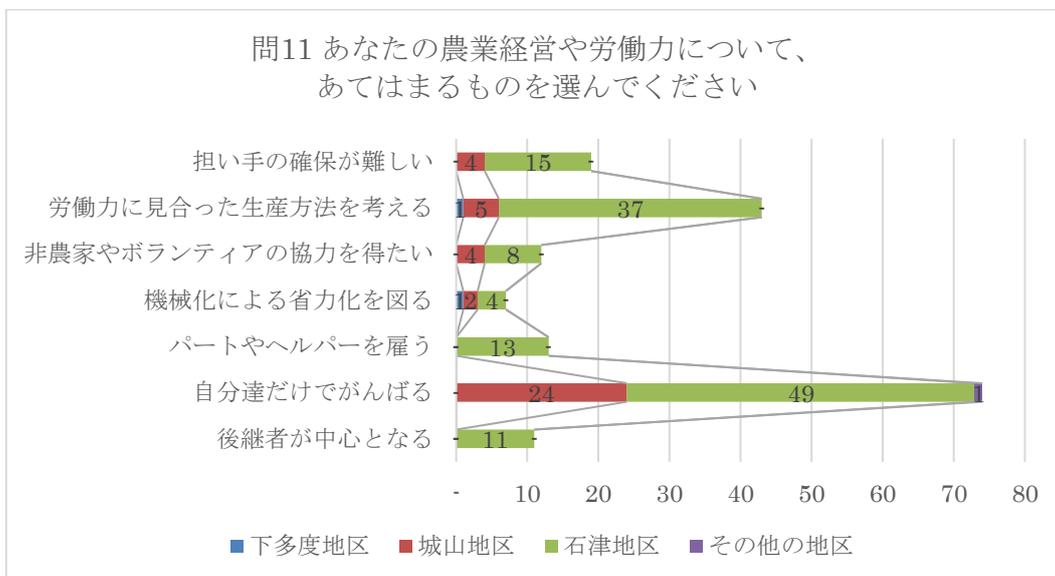
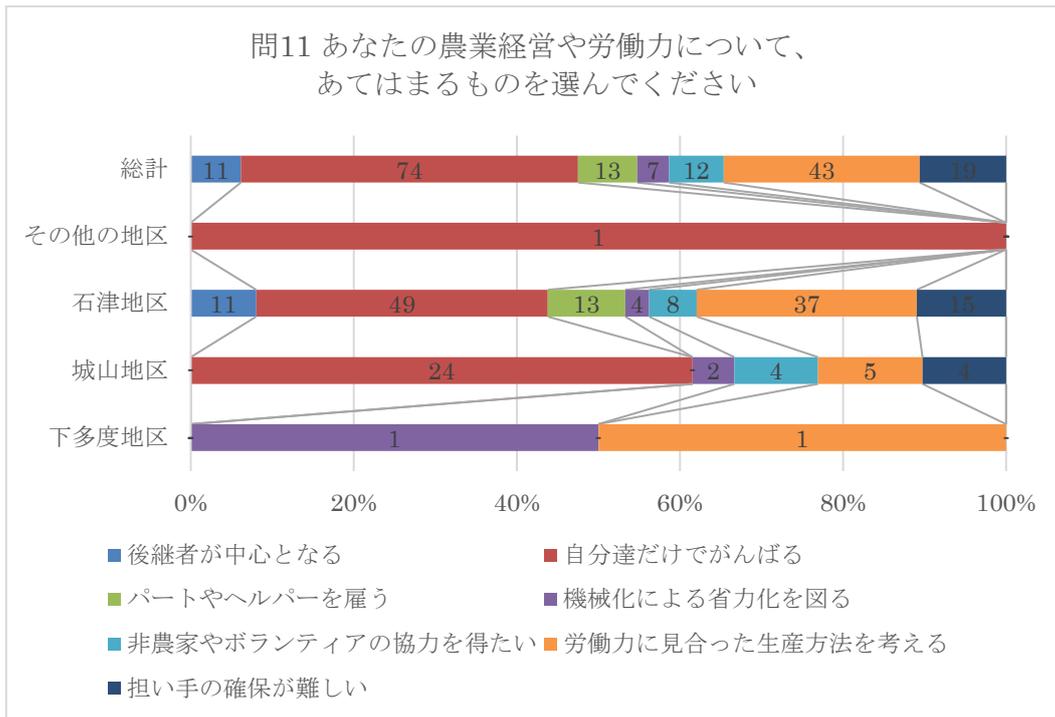


有効回答数:41/単一回答



### (11) 農業経営や労働力

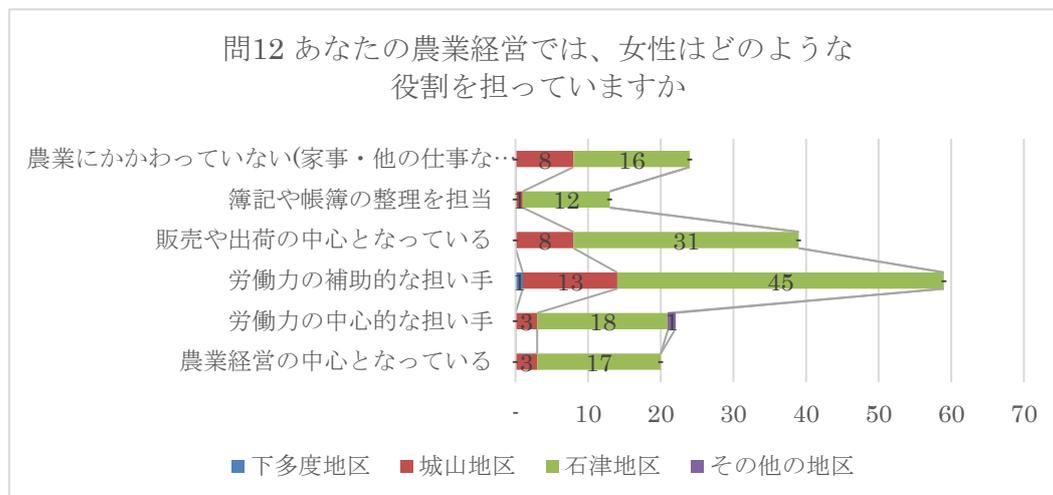
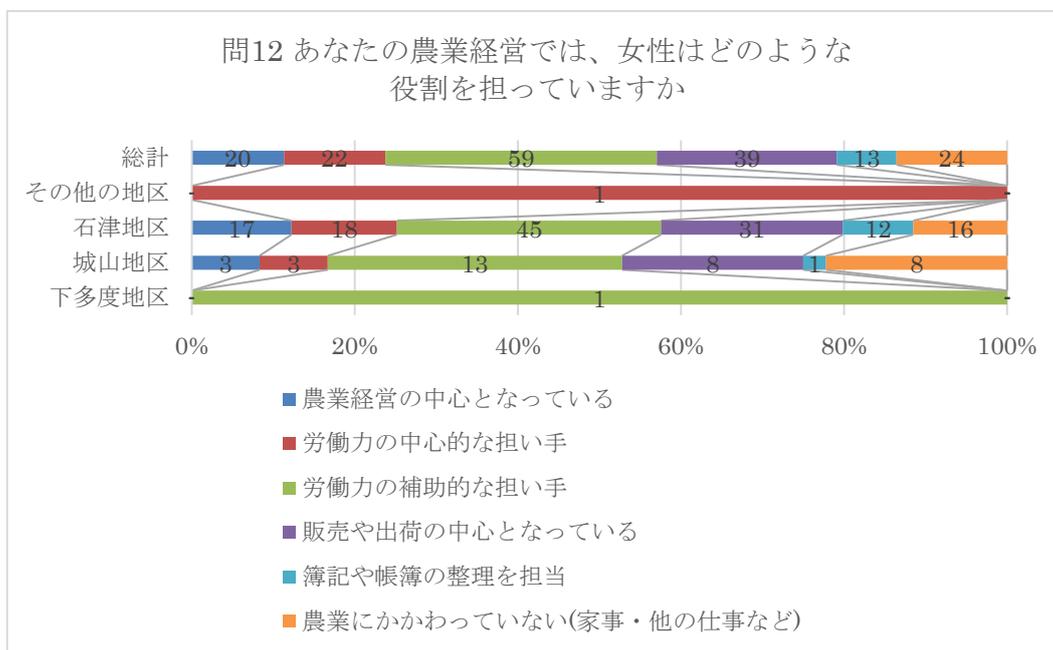
農業経営や労働力の現状について、全体では、「自分達だけでがんばる」が41% (74/179)と最も多く、次いで「労働力に見合った生産方法を考える」が24% (43/179)を占め、「担い手の確保が難しい」が11% (19/179)、「パートやヘルパーを雇う」が7% (13/179)、「非農家やボランティアの協力を得たい」が7% (12/179)、「後継者が中心となる」が6% (11/179)と続き、南濃みかん生産者の実情にあった対応が課題である。



## (12) 農業経営での女性の役割

農業経営での女性の役割について、全体では、「労働力の補助的な担い手」が 33% (59/177)と最も多く、次いで「販売や出荷の中心となっている」が 22% (39/177)、「労働力の中心的な担い手」が 12% (22/177)、「農業経営の中心となっている」が 11% (20/177)、「簿記や帳簿の整理を担当」が 7% (13/177)となり、女性の多くが農業経営に携わっていることがわかる。

女性を対象とした研修会や勉強会、意見交換会などを開催して、女性の農業経営の参画を支援していく必要があると考える。

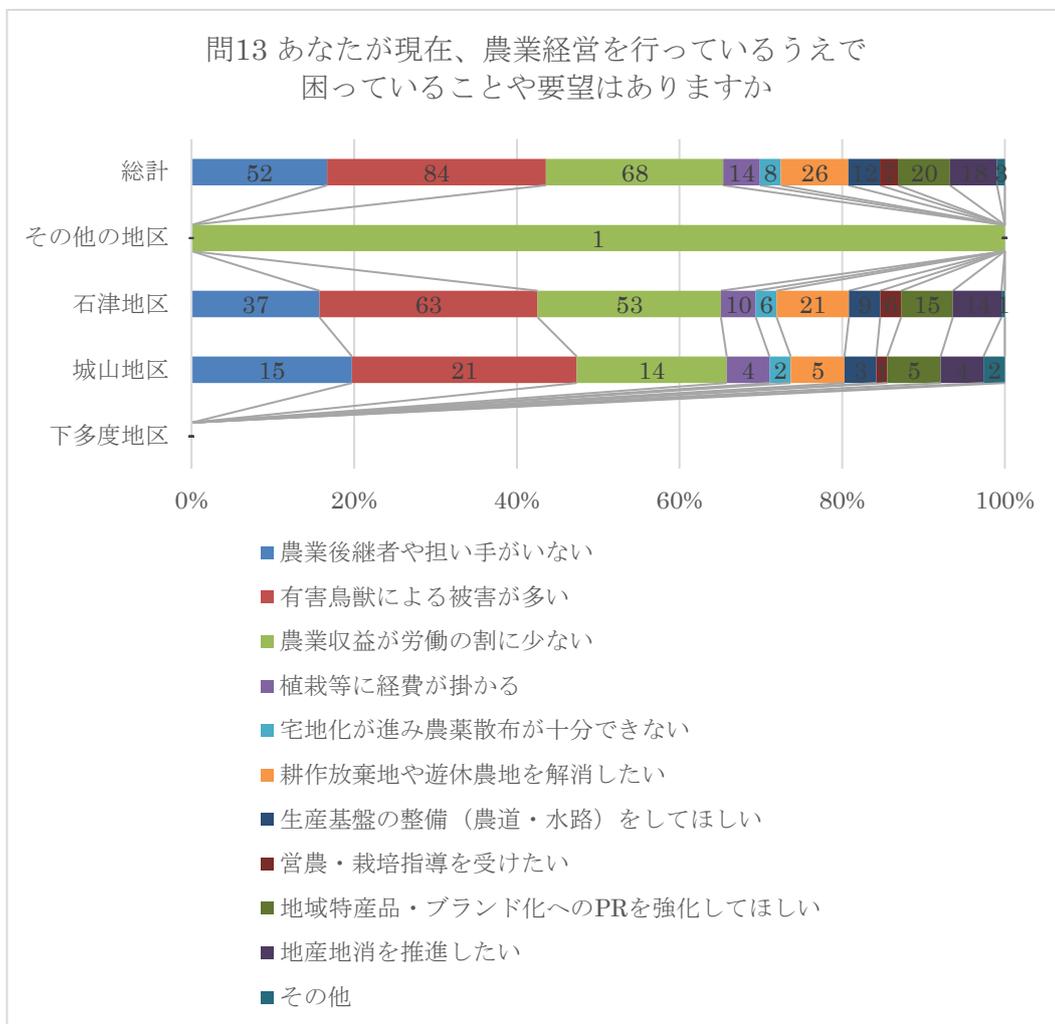


### (13) 農業経営での課題や要望

農業経営での課題や要望について、「有害鳥獣による被害が多い」が 27% (84/312) と最も多く、次いで「農業収益が労働の割に少ない」が 22% (68/312)、「農業後継者や担い手がない」が 17% (52/312)、「耕作放棄地や遊休農地を解消したい」が 8% (26/312)、「地域特産品・ブランド化への PR を強化してほしい」が 6% (20/312)、「地産地消を推進したい」が 6% (18/312) 続き、農業経営での多様な課題や要望があることがわかる。

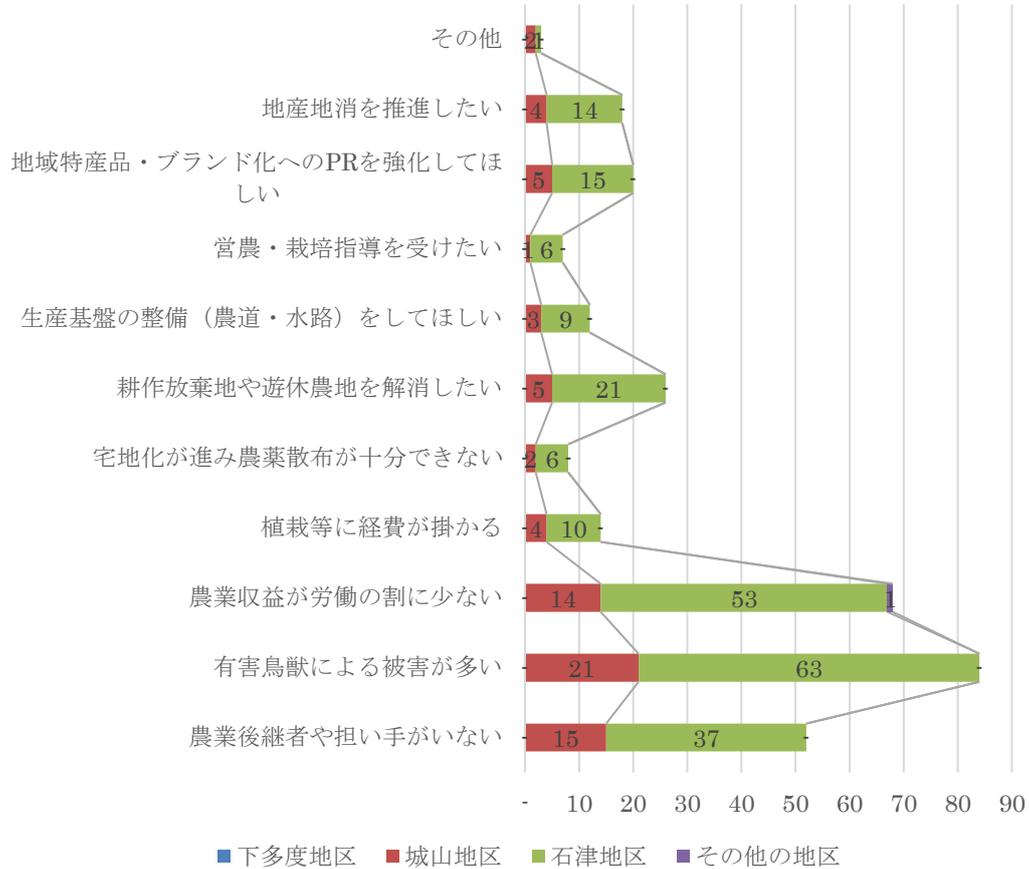
有害鳥獣対策については、現在実施している有害鳥獣防護柵や大型捕獲檻など、地域要望に沿った継続的な支援が必要である。

農業収益の増大や農業後継者や担い手不足については、南濃みかん生産者のみならず、海津市の農業全般の共通課題である。



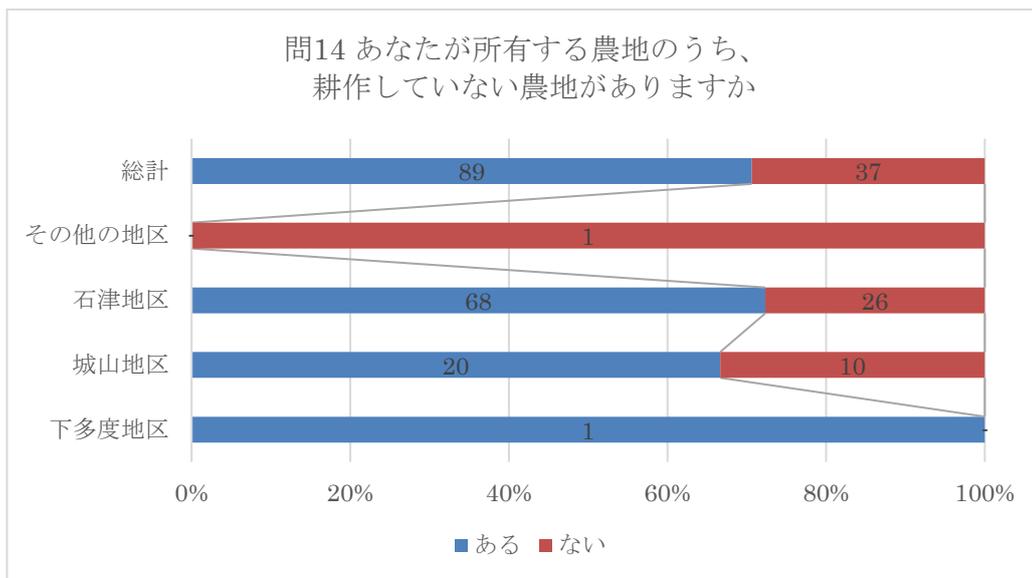
有効回答数:312/複数回答

問13 あなたが現在、農業経営を行っているうえで  
困っていることや要望はありますか

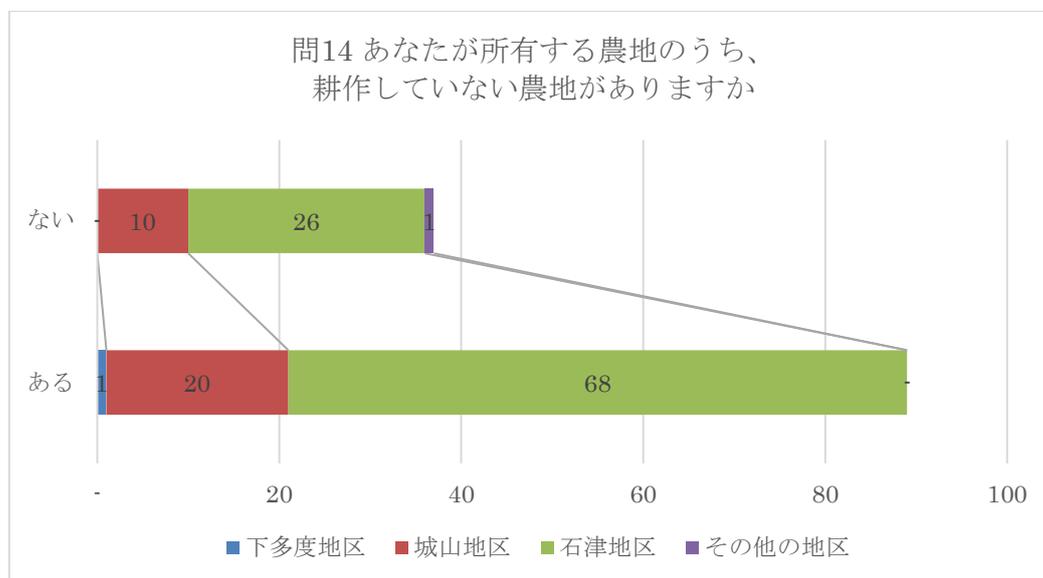


(14) 耕作していない農地の有無

耕作していない農地の有無について、全体では、「ある」が 71%(89/126)、「ない」が 29%(37/126)となっており、問 15 にて耕作していない理由を調査しました。



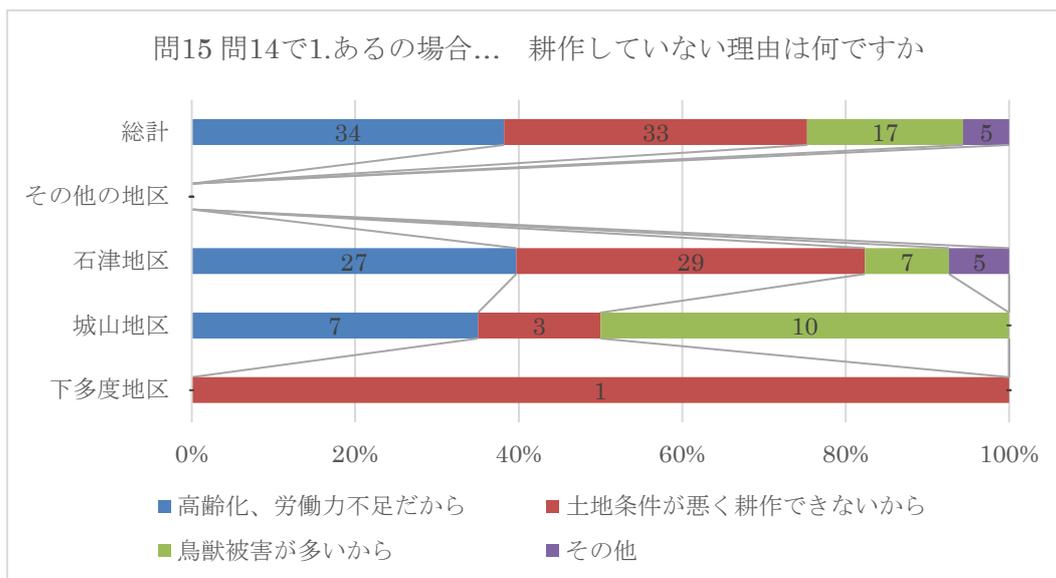
有効回答数: 126/単一回



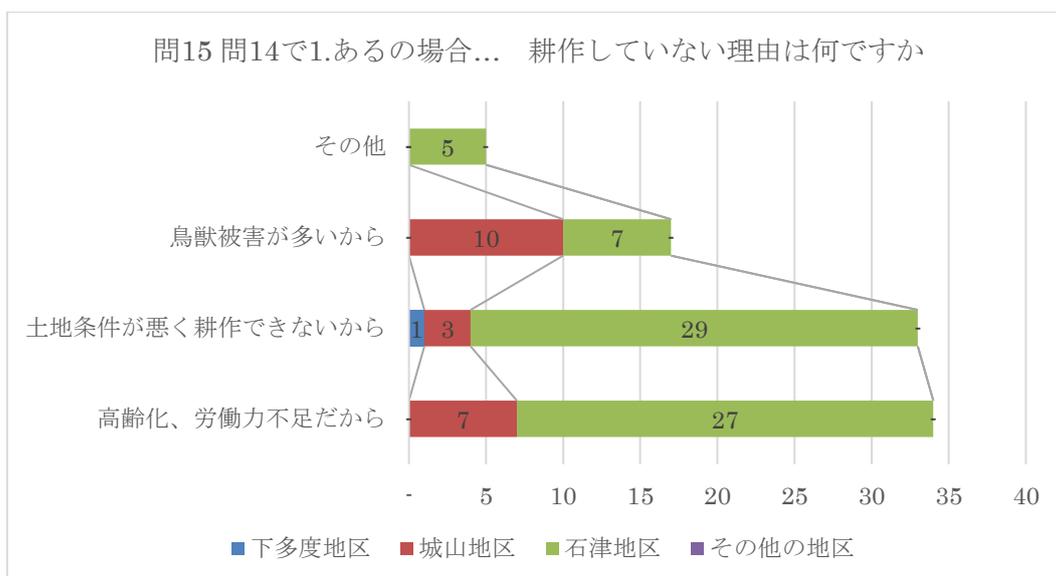
### (15) 耕作していない農地がある理由

耕作していない農地があると回答のあった生産者 89 名において、耕作していない農地がある理由について、調査した結果、「高齢化、労働力不足だから」が 38% (34/89) と最も高く、「土地条件が悪くできないから」が 37% (33/89) と高い割合を占める。

また、「鳥獣被害が多いから」も 19% (17/89) あり、「土地条件が悪く耕作できないから」と合わせると 56% (50/89) と高く、農地を維持するにあたり深刻な課題である。

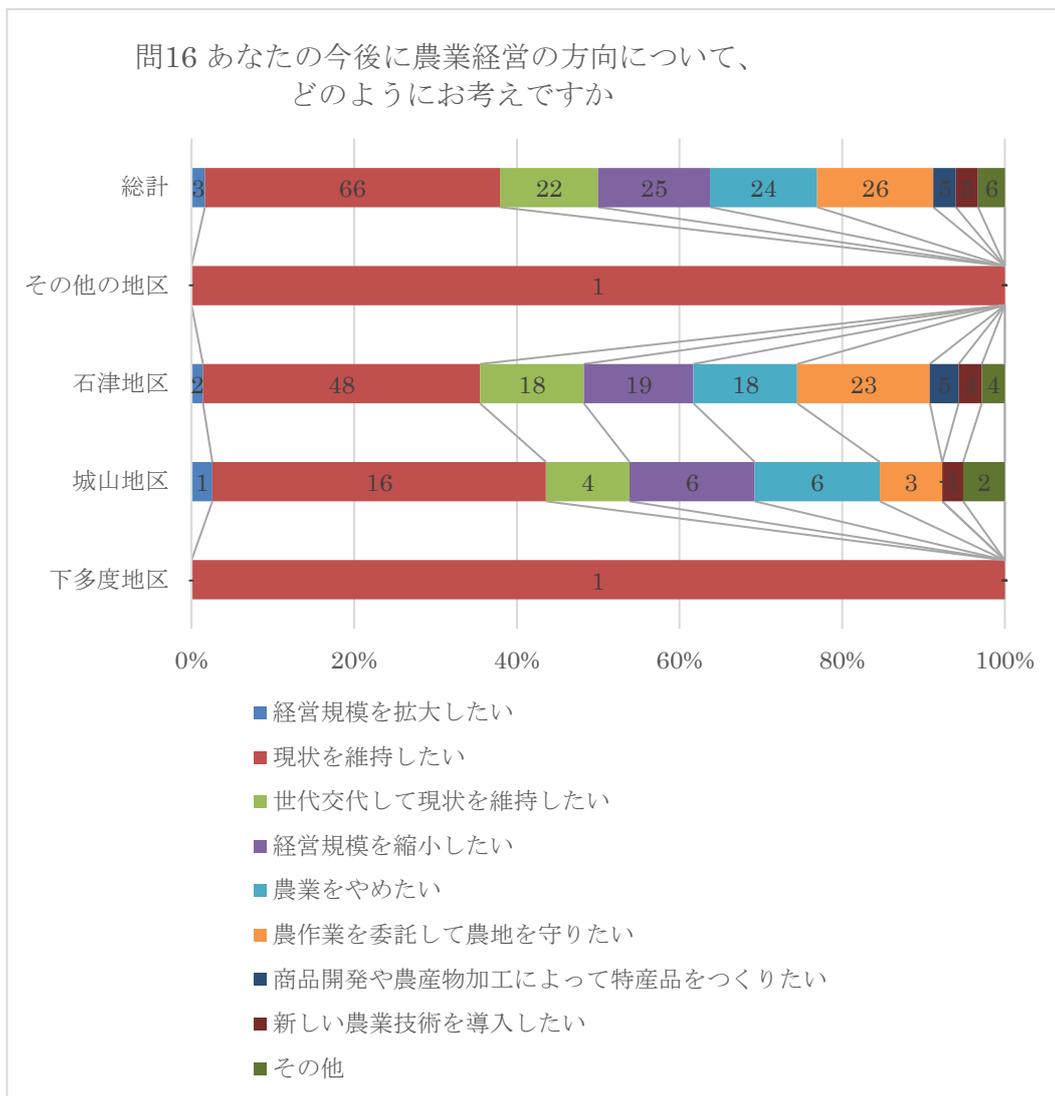


有効回答数: 89 / 単一回答



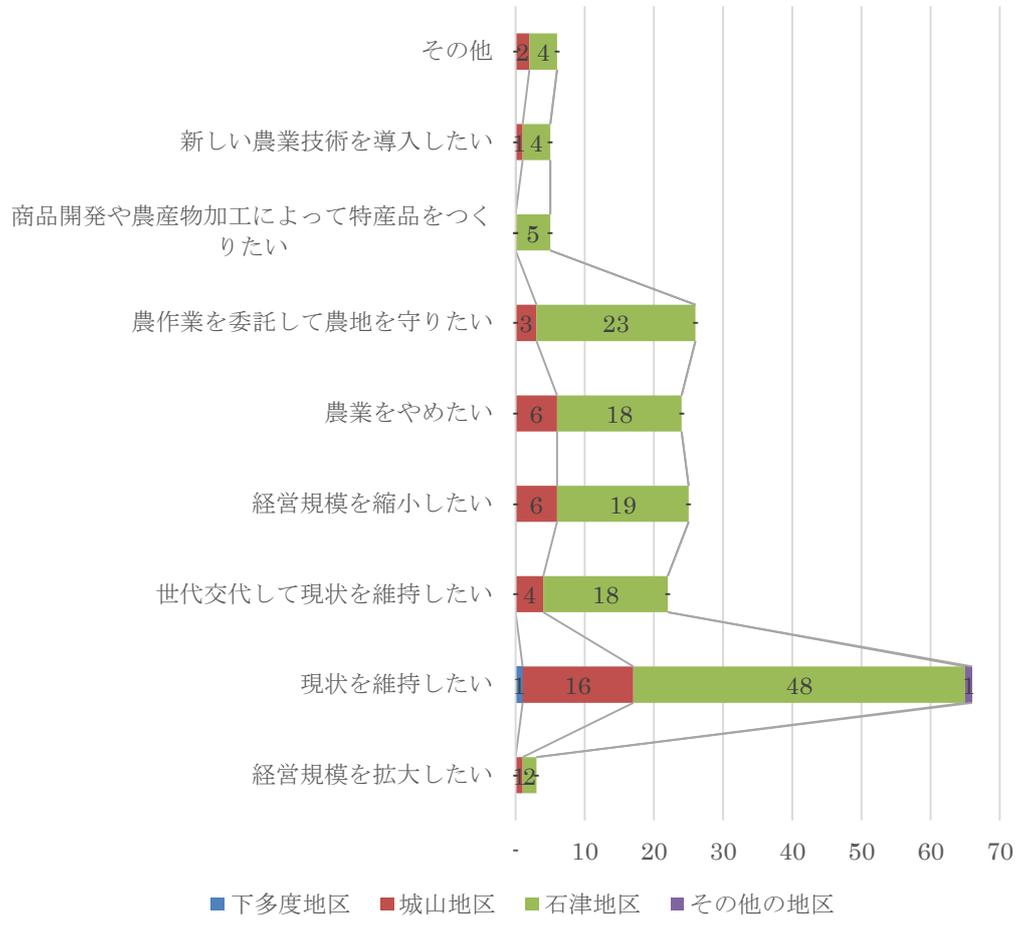
### (16) 今後の農業経営の方向性

今後の農業経営の方向性について、全体では「現状を維持したい」が 36% (66/182) と最も割合が高く、次いで「農作業を委託して農地を守りたい」が 14% (26/182)、「経営規模を縮小したい」が 14% (25/182)、「農業をやめたい」が 13% (24/182)、「世代交代して現状を維持したい」が 12% (22/182) と続き、現状を維持して農地を守りたいという意見が多いが、「農業をやめたい」という意見もあり、逆に「経営を拡大したい」と考える南濃みかん生産者は少なく、農地の担い手確保が急務である。



有効回答数: 182 / 複数回答

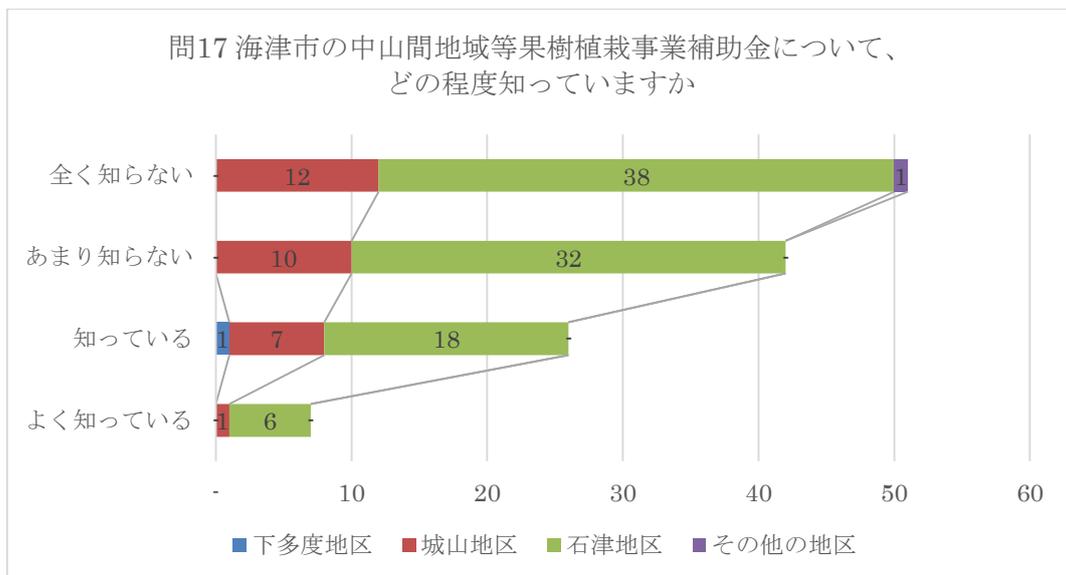
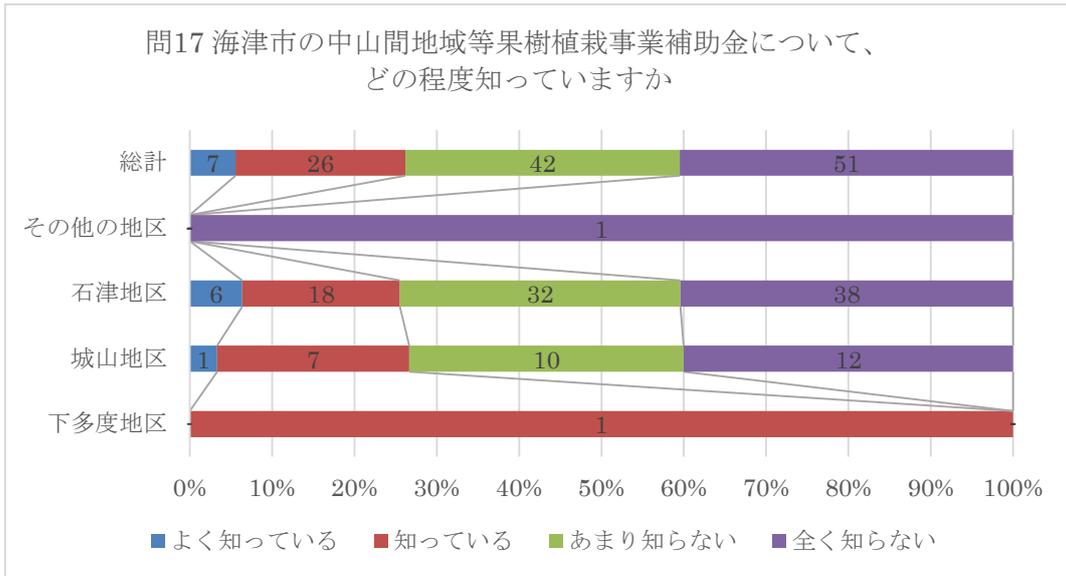
問16 あなたの今後に農業経営の方向について、  
どのようにお考えですか



(17) 中山間地域等果樹植栽事業補助金の認知度

中山間地域等果樹植栽事業補助金の認知度について、全体では「全く知らない」が 40% (51/126)と最も多く、次いで「あまり知らない」が 33% (42/126)、「よく知っている」と「知っている」が合わせて、26% (33/126)であった。

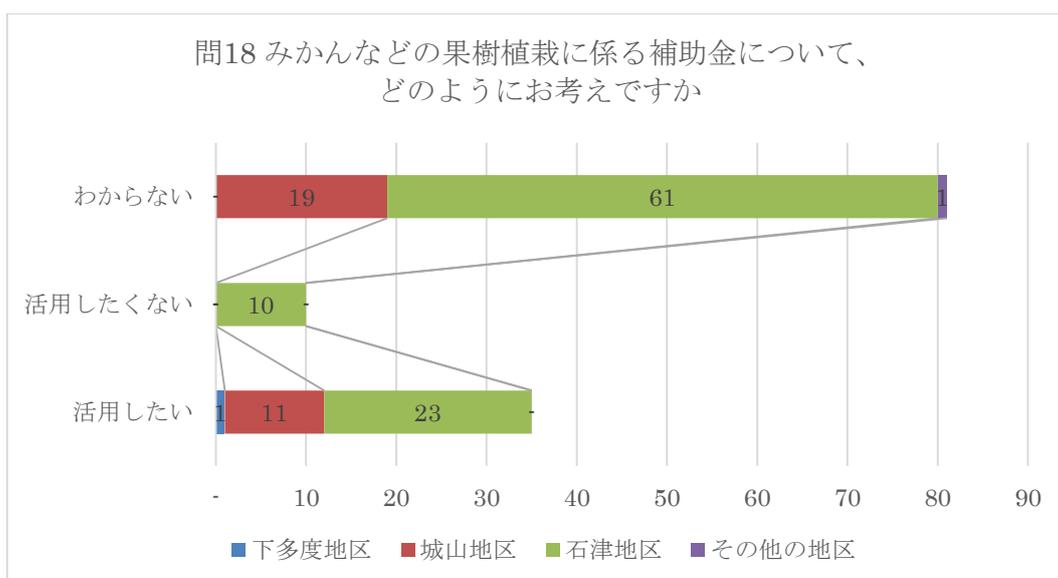
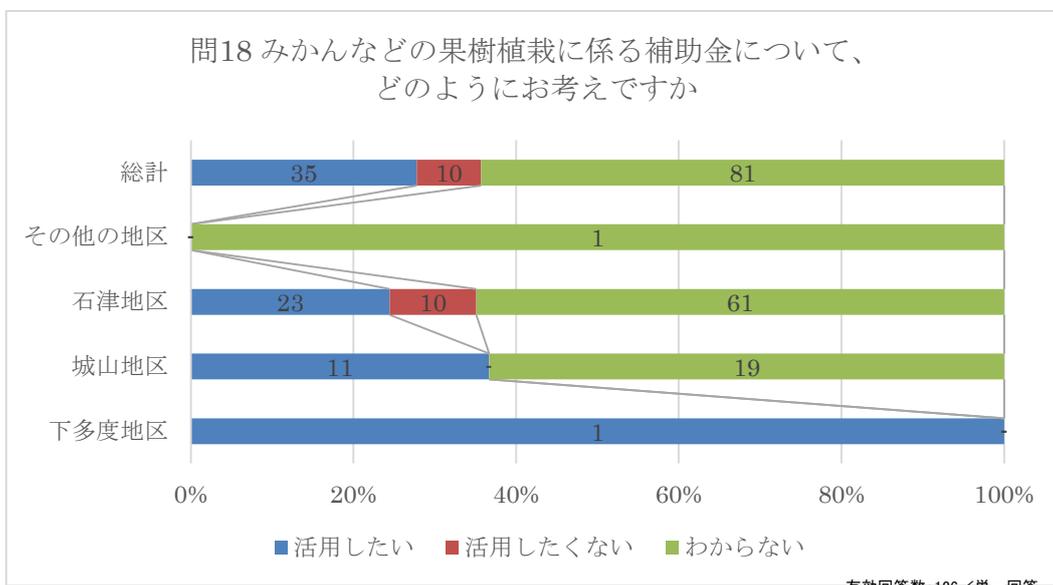
「全く知らない」と「あまり知らない」を合わせると、74% (93/126)となり、中山間地域等果樹植栽事業補助金の認知度が低いことがわかった。



(18) みかんなどの果樹植栽に係る補助金要望

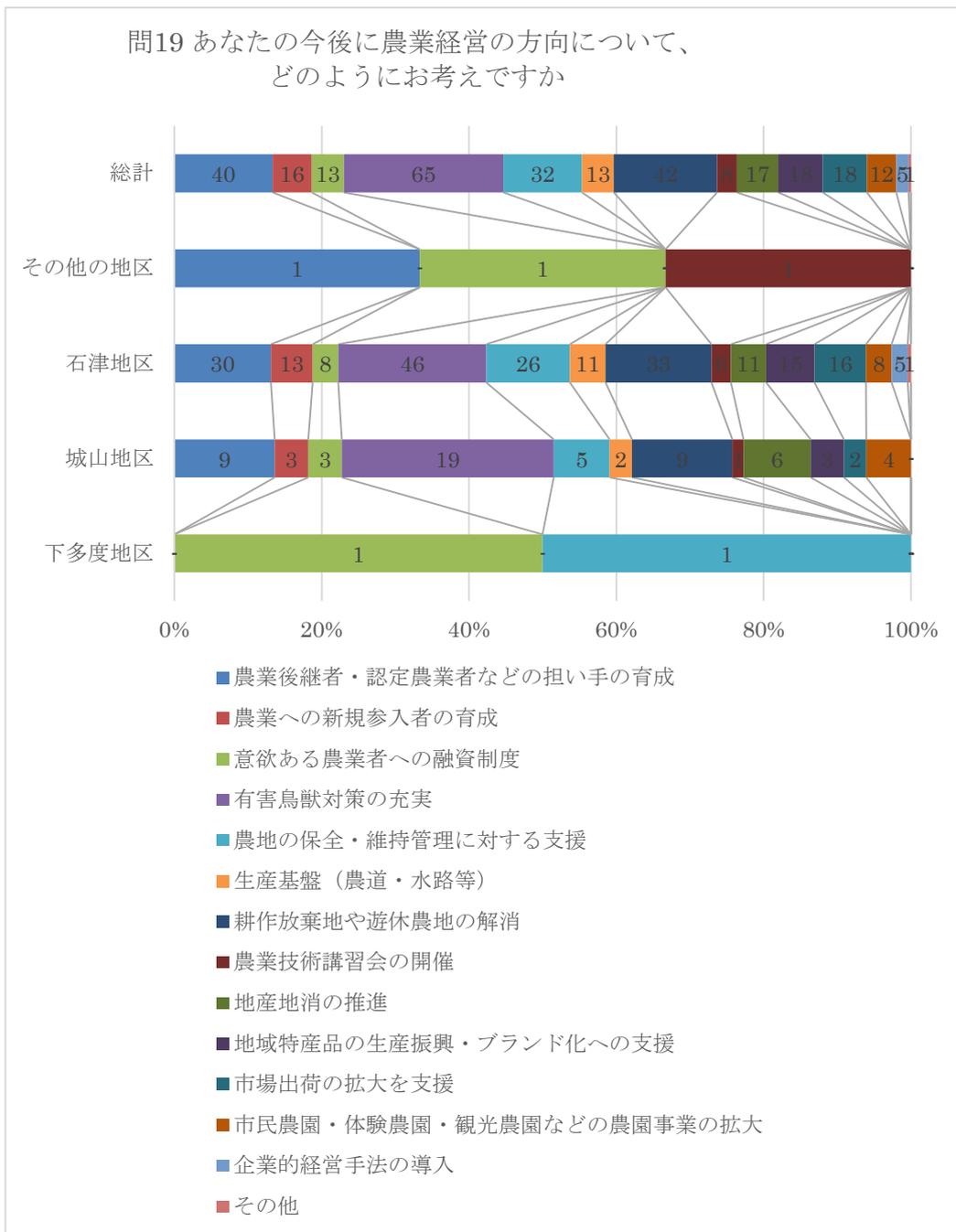
みかんなどの果樹植栽に係る補助金の活用要望について、全体では、「わからない」が64% (81/126)と最も多く、次いで「活用したい」が28% (35/126)、「活用したくない」が8% (10/126)となっており、問17の「全く知らない」と「あまり知らない」を合わせた74% (93/126)を含む南濃みかん等の生産者に対して、中山間地域等果樹植栽事業補助金制度の周知が必要である。

また、「活用したい」と回答が28%あるにも関わらず、近年では中山間地域等果樹植栽事業補助金制度の要望がなく、要綱を改正するなど、活用しやすい補助金制度への見直しも検討する必要がある。

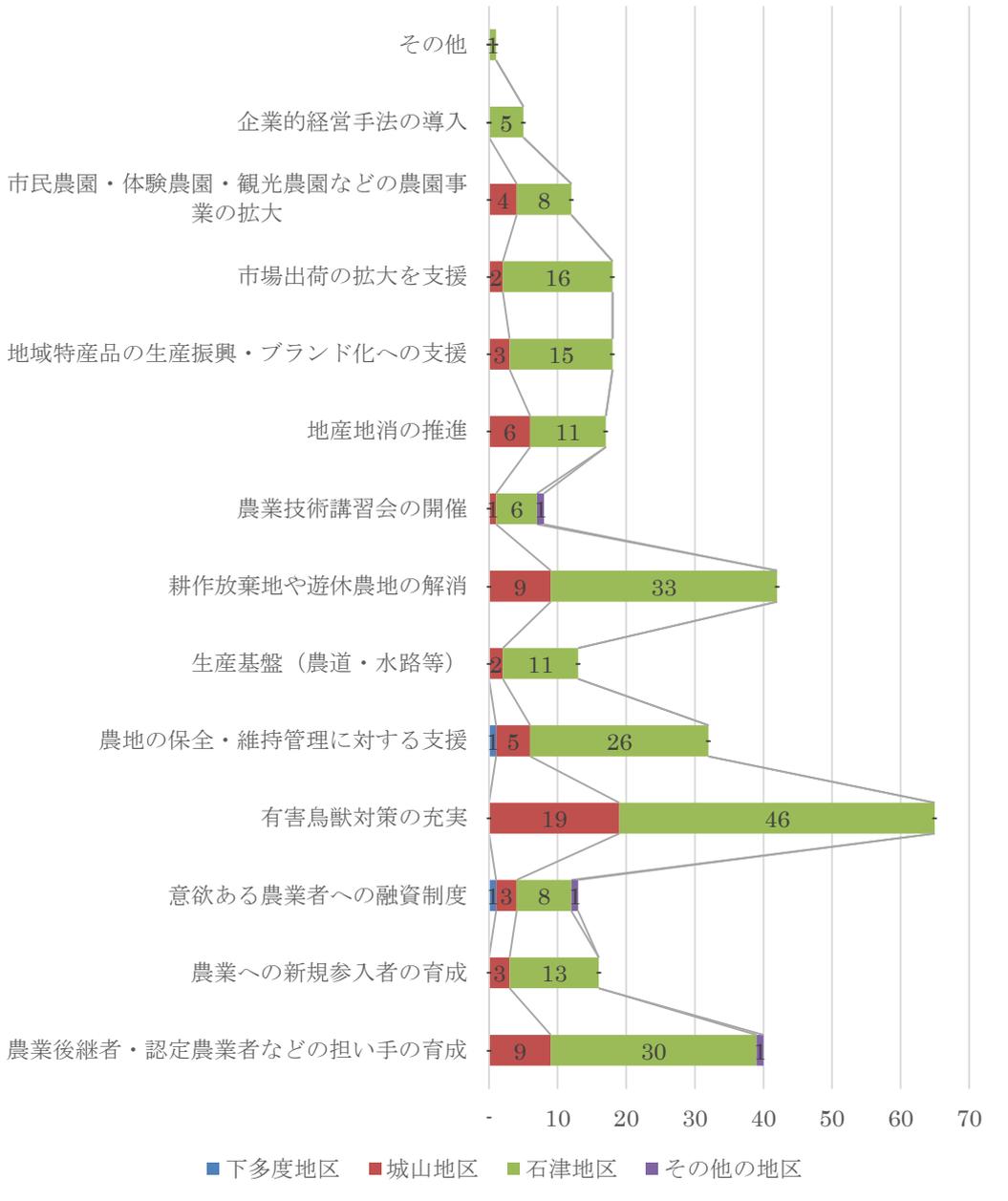


### (19) 10年後の農業経営に必要なこと

10年後も良好な農業経営を行うために必要なことについて、全体では、「有害鳥獣対策の充実」が22% (65/300)と最も多く、次いで「耕作放棄地や遊休農地の解消」が14% (42/300)、「農業後継者・認定農業者などの担い手の育成」が13% (40/300)、「農地の保全・維持管理に対する支援」が11% (32/300)と続き、「地産地消の推進」、「地域特産品の生産振興・ブランド化への支援」、「市場出荷の拡大を支援」、「農業への新規参入者の育成」についても必要との回答があり、南濃みかんの生産に意欲のある生産者も多いと考えられる。



問19 あなたの今後に農業経営の方向について、  
どのようにお考えですか



## まとめ

今回の「南濃みかん」生産者意向調査全体では、兼業農家(農業以外が主)が 56% (70/126) と最も多い。次いで専業農家が 22% (28/126)、兼業農家(農業が主)が 22% (28/126) を占めており、兼業農家が全体の 78% (98/126) を占める。

全体では、主な所得を農業以外から得ている農家の割合が比較的高く、農地を維持するための担い手の不足が懸念される。

年間の農業所得について、全体では「50 万円未満」が 49% (60/123) と最も多く、次いで「50 万円～100 万円未満」が 24% (29/123)、「100 万円～300 万円未満」が 20% (24/123)、「300 万円～500 万円未満」が 1% (1/123) となっている。

南濃みかん生産者は、農業収益が労働の割に少ないという現状が読み取れます。

農業後継者について、全体では「後継者になるかどうかわからない」が 42% (52/123) と最も多く、次いで「農業を継がせる予定がない」が 28% (35/123)、「農業を継がせる予定がある」が 15% (18/123)、「後継者になりたい者がいない」が 12% (15/123) となっている。

「すでに農業に従事している」と「農業を継がせる予定がある」を合わせると、17% (21/123) は農業後継者が確定しているが、「後継者になるかどうかわからない」42% (52/123) のみかん生産者をどう後継者としていくかが課題となっている。

農業後継者がいる又は農業後継者の予定がある場合、農業後継者の年齢について、全体では、「30 才代」が 32% (13/41)、「40 才代」と「50 才代」がそれぞれ 24% (10/41) と続き、「60 才代以上」が、7% (3/41) と 30 才台と 40 才台の若い農業後継者が 56% (23/41) いる一方で、農業後継者の高齢化が懸念される。

農業経営や労働力の現状について、全体では、「自分達だけでがんばる」が 41% (74/179) と最も多く、次いで「労働力に見合った生産方法を考える」が 24% (43/179) を占め、「担い手の確保が難しい」が 11% (19/179)、「パートやヘルパーを雇う」が 7% (13/179)、「非農家やボランティアの協力を得たい」が 7% (12/179)、「後継者が中心となる」が 6% (11/179) と続き、南濃みかん生産者の実情にあった対応が課題である。

農業経営での女性の役割について、全体では、「労働力の補助的な担い手」が 33% (59/177) と最も多く、次いで「販売や出荷の中心となっている」が 22% (39/177)、「労働力の中心的な担い手」が 12% (22/177)、「農業経営の中心となっている」が 11% (20/177)、「簿記や帳簿の整理を担当」が 7% (13/177) となり、女性の多くが農業経営に携わっていることがわかる。女性を対象とした研修会や勉強会、意見交換会などを開催して、女性の農業経営の参画を支援していく必要があると考える。

耕作していない農地の有無について、全体では、「ある」が 71% (89/126)、「ない」が 29% (37/126) となっており、問 15 にて耕作していない理由を調査しました。

耕作していない農地があると回答のあった生産者 89 名において、耕作していない農地がある理由について、調査した結果、「高齢化、労働力不足だから」が 38% (34/89) と最も高く、「土地条件が悪くできないから」が 37% (33/89) と高い割合を占める。

また、「鳥獣被害が多いから」も 19% (17/89) あり、「土地条件が悪く耕作できないから」と合わせると 56% (50/89) と高く、農地を維持するにあたり深刻な課題である。

農業経営での課題や要望について、「有害鳥獣による被害が多い」が 27% (84/312) と最も多く、次いで「農業収益が労働の割に少ない」が 22% (68/312)、「農業後継者や担い手がない」が 17% (52/312)、「耕作放棄地や遊休農地を解消したい」が 8% (26/312)、「地域特産品・ブランド化への PR を強化してほしい」が 6% (20/312)、「地産地消を推進したい」が 6% (18/312) 続き、農業経営での多様な課題や要望があることがわかる。

有害鳥獣対策については、現在実施している有害鳥獣防護柵や大型捕獲檻など、地域要望に沿った継続的な支援が必要である。

農業収益の増大や農業後継者や担い手不足については、南濃みかん生産者のみならず、海津市の農業全般の共通課題である。

今後の農業経営の方向性について、全体では「現状を維持したい」が 36% (66/182) と最も割合が高く、次いで「農作業を委託して農地を守りたい」が 14% (26/182)、「経営規模を縮小したい」が 14% (25/182)、「農業をやめたい」が 13% (24/182)、「世代交代して現状を維持したい」が 12% (22/182) と続き、現状を維持して農地を守りたいという意見が多いが、「農業をやめたい」という意見もあり、逆に「経営を拡大したい」と考える南濃みかん生産者は少なく、農地の担い手確保が急務である。

中山間地域等果樹植栽事業補助金の認知度について、全体では「全く知らない」が 40% (51/126) と最も多く、次いで「あまり知らない」が 33% (42/126)、「よく知っている」と「知っている」が合わせて、26% (33/126) であった。

「全く知らない」と「あまり知らない」を合わせると、74% (93/126) となり、中山間地域等果樹植栽事業補助金の認知度が低いことがわかった。

みかんなどの果樹植栽に係る補助金の活用要望について、全体では、「わからない」が 64% (81/126) と最も多く、次いで「活用したい」が 28% (35/126)、「活用したくない」が 8% (10/126) となっており、問 17 の「全く知らない」と「あまり知らない」を合わせた 74% (93/126) を含む南濃みかん等の生産者に対して、中山間地域等果樹植栽事業補助金制度の周知が必要である。

また、「活用したい」と回答が 28% あるにも関わらず、近年では中山間地域等果樹植栽事業補助金制度の要望がなく、要綱を改正するなど、活用しやすい補助金制度への見直しも検討する必要がある。

10年後も良好な農業経営を行うために必要なことについて、全体では、「有害鳥獣対策の充実」が22%(65/300)と最も多く、次いで「耕作放棄地や遊休農地の解消」が14%(42/300)、「農業後継者・認定農業者などの担い手の育成」が13%(40/300)、「農地の保全・維持管理に対する支援」が11%(32/300)と続き、「地産地消の推進」、「地域特産品の生産振興・ブランド化への支援」、「市場出荷の拡大を支援」、「農業への新規参入者の育成」についても必要との回答があり、南濃みかんの生産に意欲のある生産者も多いと考えられる。

これらの「南濃みかん」生産者意向調査の結果を踏まえ、農業後継者や担い手の確保、有害鳥獣被害防止、耕作放棄地や遊休農地の解消、農地の保全・維持管理に対する支援、中山間地域等果樹植栽事業補助金の見直し及び周知など、農業経営の実態に沿った農業振興計画策定を進めていきたいと考えます。

# 資 料

「南濃みかん」生産者意向調査

調査票様式

集計結果

# 「南濃みかん」生産者意向調査 調査票様式

# 「南濃みかん」生産者意向調査 集計結果